

石川工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	歴史 I I
科目基礎情報					
科目番号	15330		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科		対象学年	2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『世界の歴史 A』 (山川出版) 『グローバルワイド最新世界史図表』 (第一学習社) 『私たちが拓く日本の未来』 (総務省・文科省)				
担当教員	佐々木 香織				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代の社会制度・政治制度の変遷について理解できる。</li> <li>2. 帝国主義と国民国家形成との関係が理解できる。</li> <li>3. 列強諸国の世界進出に日本も深く関わっていることが理解できる。</li> <li>4. 東アジアをめぐる列強諸国と日本との関係が理解できる。</li> <li>5. 近代日本の外交について理解できる。</li> <li>6. 二度の世界大戦における各国の立場を理解できる。</li> <li>7. 大戦後、独立するまでの日本の状態を理解できる。</li> <li>8. 歴史的な事象に関わる日本および世界の地理の知識を得る。</li> <li>9. 適切な資料を調査し、必要な情報を取捨選択できる。</li> <li>10. 調査した資料を私見を交えず客観的にまとめることができる。</li> <li>11. 歴史的な事象について考察したことを論理的に表現、記述できる。</li> <li>12. 現代世界の諸問題を自らの問題として考察する力を養う。</li> </ol>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 項目1,2,3,4,5,6,7,	歴史的な事象について読解・表記・説明でき、それらを自分の問題として考察できる		史的な事象に関する語句を正しく読解・表記し、意味を説明できる		歴史的な事象に関する語句を正しく読解できない。意味が説明できない。
評価項目2 項目8	世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得、地図上に表記できる		世界史・日本史で学ぶ国や地域についての正確な知識を得る		世界史・日本史で学ぶ国や地域の名称を知らない
評価項目3 項目9,10,11,12	現代の諸問題を自らの問題として考察する姿勢をもち、歴史的な事象について適切な資料を調査収集し、必要な情報を取捨選択して私見を交えず客観的にまとめ、その内容について考察したことを論理的に表現・表記できる		歴史的な事象について考察したことを論理的に表現・記述できる		歴史的な事象についての知識がない
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	これからの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会や自然環境への理解を深め、幅広い視野を持つ必要がある。そこで本授業では、近現代の世界・日本の歴史を総覧することで知識を高め、それに基づいて現代の諸問題を主体的に考察し、自らの考えを論理的に表現する基礎学力を養うことを目標とする。				
授業の進め方・方法	到達目標を達成するため、随時、地図作業、論述文作成を課す。				
注意点	<p>【評価方法・評価基準】</p> <p>成績の評価基準として50点以上を合格とする。試験は中間試験、期末試験の2回行う。</p> <p>成績評価の割合は以下の通り。</p> <p>前期中間試験 (40%)、前期末試験 (40%)、レポート課題 (10%)、ノートテイキング (10%)</p> <p>事項の暗記に終始せず、出来事の成り立ちやそれぞれの影響関係についてよく整理しておくこと。</p> <p>また、それを明晰な文章で表現できる力を身につけること。</p> <p>課題は必ず提出すること。</p>				
テスト					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イギリス産業革命		産業革命が技術や経済、交通だけでなく、社会階層や思想にも影響を及ぼしたことについて理解できる。
		2週	ナショナリズムとその時代		ナポレオンの大陸支配によって、ヨーロッパにおいてアイデンティティとナショナリズムが自覚されていった経緯について理解する。
		3週	イタリアとドイツの統一		ナショナリズムによって誕生した国家を具体的に理解できる。
		4週	列強のアジア進出とアヘン戦争		帝国主義がアジアに及ぼした影響について理解できる。
		5週	幕藩体制の構造		帝国主義の影響が日本にも及び、内乱の原因となったことが理解できる。
		6週	江戸幕府の対外政策		日本国内にも開国派と攘夷派の対立があったことを理解できる。
		7週	幕末の動乱と明治維新		明治維新までの推移についての知識を得、明治政府の対外政策について理解できる。
		8週	日清戦争		明治政府の対外政策が帝国主義に基づいて行われたものであることを理解できる。
	2ndQ	9週	情報リテラシー指導		ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。
		10週	日露戦争と辛亥革命		日本が列強国を目指す過程とアジアの動向について理解できる。

		11週	第一次世界大戦とヴェルサイユ条約	第一次世界大戦の動向と、それが現代に及ぼした影響について理解できる。
		12週	世界恐慌とファシズムの台頭	アメリカで起きた恐慌が日本を含む世界に及ぼした影響について理解できる。
		13週	第二次世界大戦	第二次世界大戦における日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。
		14週	戦後日本と主権者の在り方	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。 民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。
		15週	前期復習	複雑な事象の本質を整理し、構造化し、結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に表現できる。
		16週		

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	1	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	1	
どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2					
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	1					
事実をもとに論理や考察を展開できる。	3					

			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3		
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3		
			自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	3		
			目標の実現に向けて計画ができる。	3		
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3		
			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3		
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3		
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1		
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1		
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1		
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1		
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1		
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1		
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1		
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3		
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3		
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1		
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	1		
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	1		
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	1		
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	1		
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	1		
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	1		
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	1		
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	1		
			企業には社会的責任があることを認識している。	1		
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	1		
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	1		
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	1		
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3		
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3		
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	1		
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	2		
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	1		
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3					
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	1		
			公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3		
			要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	1		
			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	1		
			提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	1		
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	10	10	100

基礎的能力	40	0	0	0	5	0	45
專門的能力	30	0	0	0	0	5	35
分野横断的能力	10	0	0	0	5	5	20